
懐中時計

ましろ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

懐中時計

【Nコード】

N6901G

【作者名】

ましる

【あらすじ】

たとえ涙で前が見えなくなっても、君がいたから頑張れる。だから、心配しないで下さい。僕は大丈夫だから。

君とはじめて会ったのは、小さな楽園でした。

僕と君、二人だけのささやかな居場所。

最初は色々戸惑ったりもしてたけど、

いつしかお互いに通じ合うことができるようになっていました。

一緒に遠くまで散歩に行ったこともありました。

一緒においしいご飯を食べたこともありました。

僕はあの頃よりずっと料理が上手くなりました。

いつか君においしいって言うてもらったことが忘れられなくて、

あの声を聞きたくて、一生懸命勉強しました。

一緒にお店を出したこともありました。

初めて商品が売れた時は二人でおいしいレストランに行きました。

あの時の喜びは今でも鮮明に覚えています。

喜びも、悲しみも、怒りも、全て

全て君と一緒にでした。

それなのに。

どうして、君は逝ってしまったのですか。

僕を置いて行かないで下さい。

君が居なくても生きていけるほど、僕は強い人間ではないのに。

今まで生きてきて、これ以上に涙を流した日はありませんでした。

これ以上、胸が苦しくなったこともありませんでした。

それでもきつと君はたくさんの時間の中に埋もれてしまうのでしょう。

3

でも君のいた場所に、他のものが入ることはないのです。

他のなにかに君を忘れさせることはできないのです。

ごめんなさい。

君が最期に残そうとしたもの、本当は僕も分かっています。

美しい自然に満ち満ちたこの世界を。

君の愛していたものを、僕に渡してくれたことを。

命に代えてでも、守りたかったものを。

僕は気付いているのに、君のいなくなった世界を愛せずにいます。

ごめんなさい。

僕は弱いから、君にやり場のない感情をぶつけています。

それがいけないことだとは分かっていました。でも、

そうしなければ、僕はこの世界に耐えられなかったから。

ごめんなさい。ありがとうございます。

君の形見の懐中時計は静かに時を刻んでいます。

僕の時もいつか動き出せるように、祈っていて下さい。

君を忘れずに、君の残した世界を愛せるように、

祈っていて下さい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6901g/>

懐中時計

2011年1月4日02時30分発行